

Quality is more than a word

ESPEC



第 **62** 期

株主通信

2014年4月1日から2015年3月31日まで



株主のみなさまへ

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)の日本経済は、米国経済の拡大や円安を背景とした企業の競争力向上などにより回復基調が継続しました。また、企業に賃金上げの動きが見られるなど個人消費の押し上げが期待される状況となりました。

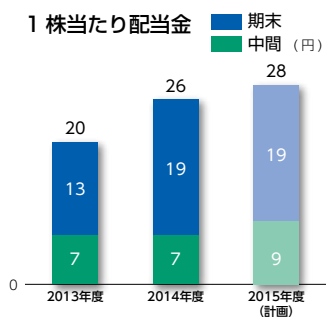
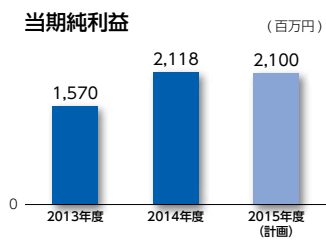
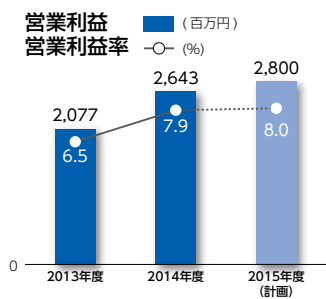
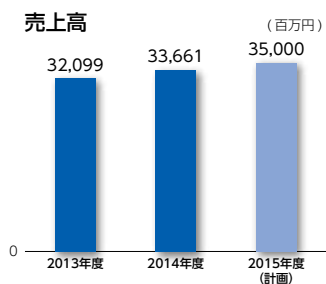
当社の主要なお客さまにおきましては、自動車関連メーカーでは積極的な投資が継続するとともに、エレクトロニクス関連メーカーでも投資意欲の改善が見られました。こうした中、当社は、自動車市場での取り組みを強化するとともに、中国・東南アジアにおいて営業活動を強化し、国内市場では、汎用性の高い標準製品の販売が好調に推移しました。海外市場では、中国や欧州を中心に輸出が増加しました。連結業績につきましては、売上高は前期比で4.9%の増加、営業利益は売上構成の変化などにより27.3%の増加、当期純利益は34.9%の増加となりました。

期末配当金につきましては、連結業績が期初計画を上回ったことから、1株当たり6円を増額し、19円とさせていただきます。これにより、年間の配当金は前期を6円上回る26円(配当性向28.5%)となりました。

2015年度におきましては、中国・ASEAN諸国を中心に海外での売上拡大を目指すとともに、エネルギーデバイス市場やライフ市場(医薬品、食品、化粧品)の開拓に努め、事業領域の拡大に取り組んでまいります。国内では、お客さまの試験業務の効率化に役立つ総合技術サービスの提供や、カスタム対応範囲の拡大に注力してまいります。

連結業績の見通しにつきましては、売上高35,000百万円、営業利益2,800百万円、当期純利益2,100百万円を計画しております。年間の配当金につきましては1株当たり28円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 **いしだ まさあき**
石田 雅昭

中期経営計画の達成に向けて自動車市場を開拓 世界で拡大する環境試験ニーズに対応

スマホやエコカー、医薬品から宇宙開発まで幅広い分野で使用される環境試験器。当社はこの分野で世界トップシェアを誇ります。当社の事業をよりご理解いただくために、特に拡大が著しい自動車市場での試験ニーズや当社の取り組みをご紹介します。

自動車市場で拡大する環境試験ニーズ

人を乗せる自動車は、走行中に故障すると大事故につながるため、非常に厳しい環境試験が行われています。近年、燃費改善やエコカーの開発などを背景に、軽量化・電装化が進んでいます。また、「自動運転機能」といった新しい開発テーマもあり、試験ニーズが拡大しています。さらに、東南アジアや中南米などでは、自動車需要の拡大が見込まれており、多様な走行環境を想定した環境試験が必要になっています。

世界の気象環境や道路事情は多種多様

例えば日本では梅雨になると非常に湿度が高くなりますが、高湿は電子部品の故障を招くことがあります。また、北米など雪の多い地域では、低温低湿に加え、融雪剤が影響を及ぼすことがあります。新興国など道路整備が不十分な地域では、泥や振動にさらされます。その他、真夏の直射日光や、砂漠地帯の乾燥・砂塵など自動車は非常に多様な環境にさらされています。



先端技術の課題解決に向けて 新しい環境試験ニーズに対応した装置開発に挑戦

自動車関連メーカーが新技術開発を加速する中、さまざまな技術課題が浮き彫りになっています。その課題解決のために環境試験器への新しい要望が増えています。当社はこのような個別の要望に幅広くお応えするため、カスタム対応範囲の拡大に取り組んでいます。自動車が1台入る大型の装置や、温湿度に光や振動を組み合わせる装置、急激な温度変化を急速に繰り返す装置など多様な装置に挑戦しています。また、カスタム製品のモジュール標準化や他社との協業を積極的に進め、生産納期の短縮を目指しています。



自動車が1台入る大型の環境試験装置

電気自動車などエコカー用二次電池の評価装置 ラインナップを拡充

エコカーの普及を背景に、エコカーに関する国連規則が改正されるなど、車載用二次電池の信頼性や安全性に関する試験の重要性が世界規模で高まっています。当社は、2011年度より二次電池評価装置の市場投入を進め、売上拡大に努めています。2014年11月には、恒温槽内の均一な温度分布を実現した評価装置と、1台で3つの安全性試験（釘刺し・圧壊・外部短絡試験）が行える安全性試験装置を新たに発売しました。国際規格に適合したラインナップを拡充し、世界で広がる車載用二次電池の試験ニーズに的確に応えてまいります。



車載用二次電池の評価装置
アドバンスバッテリーテスター

日系企業の技術サポートを強化 タイに新会社を設立

3月に、タイに新会社「ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.」を設立し、「ASEANテクニカルサポートセンター」を開設しました。これにより、ASEAN諸国の日系企業のみならず、ASEAN諸国への技術サポートを強化いたします。稼働は7月の予定です。

ASEAN諸国は、日系企業の開発・生産拠点のシフトが進んでいます。中でも自動車関連メーカーが多数拠点を設けており、環境試験器の需要拡大が見込まれます。本センターでは、製品の修理対応や保守点検、校正など技術サポートを強化します。また、2016年度を目途に受託試験サービスを開始する予定です。ASEAN諸国におけるさらなる売上拡大を目指してまいります。



会社名：ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
所在地：タイ王国 チョンブリ県 アマタナコーン工業団地内
設立：2015年3月31日

お客さまとの信頼関係の強化を目指して 業界初 製品の5年保証をスタート

1月に、お客さまとの信頼関係をより確かなものにするために、『つながる』『安心』をキーワードに、業界初となる製品の5年保証をスタートしました。主力3製品において、当社製品を設置してから5年間、無料で修理対応をします。環境試験器の基幹となる冷凍回路を見直し、信頼性を向上するとともに、コントローラーやその他主要部品についても、高い品質を確保しました。これは、製品の品質の高さと万全のアフターサービス網を持つ当社ならではのサービスです。このような当社独自のサービスで、国内での競争力をさらに強化してまいります。

対象製品



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ



冷熱衝撃装置 TSAシリーズ

小型環境試験器

食品の保存試験に適した 低温恒温恒湿器の発売

新製品

当社は、今後成長が見込める分野として、医薬品・食品・化粧品分野を「ライフ市場」と位置付け、売上拡大に取り組んでいます。

2月に、当社は新たに食品の保存試験や医薬品・化粧品の長期冷蔵保存試験に適した「低温恒温恒湿器」を発売しました。本製品は、食品の消費・賞味期限を設定するために行われる保存試験に幅広く対応するとともに、医薬品の国際基準であるICHガイドラインの温湿度分布基準を業界で初めて保証しています。2014年5月に発売した医薬品の品質を確認する安定性試験器／試験室とあわせて、ライフ市場での売上拡大を目指してまいります。



低温恒温恒湿器

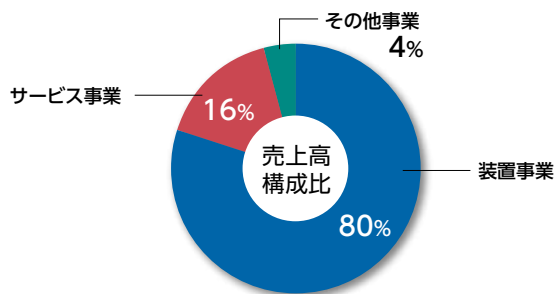
個人投資家向けIRイベント 「東証IRフェスタ2015」への出展

3月に、東京国際フォーラムで行われた東京証券取引所主催の「東証IRフェスタ2015」に出展しました。昨年に続いて2回目の出展です。社長による会社説明会のほか、出展ブースにおいてミニ説明会を2日間で30回開催し、約950名のみなさまにご来場いただきました。「もっと早く知っておけばよかった」「力強い魅力的な会社」「今後の成長に期待できる」といった声を多数いただきました。今後も、より多くのみなさまに当社を知っていただき、ご理解を深めていただくための活動に積極的に取り組んでまいります。



会社説明会(写真上)
エスペックの出展ブース(写真下)

事業セグメント別概況



〈装置事業〉

- 環境試験器
- エナジーデバイス装置
- 半導体関連装置
- FPD関連装置

〈その他事業〉

- 環境エンジニアリング
森づくり・水辺づくり・都市緑化など
- 新規事業
植物工場など

〈サービス事業〉

- アフターサービス・エンジニアリング
- 受託試験・レンタル

装置事業

環境試験器が国内外で好調に推移し増収増益

環境試験器では、国内市場において投資意欲の改善が見られ、汎用性の高い標準製品が好調に推移しました。海外市場では、中国や欧州を中心に輸出が前期比で増加しました。環境試験器全体では受注高・売上高ともに前期比で増加しました。

エナジーデバイス装置では、車載用二次電池の充放電評価装置や安全性試験装置の受注を獲得するとともに、パワー半導体の評価装置が堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加しました。

また、半導体関連装置の売上高は前期並みとなり、FPD関連装置の売上高は減少しました。

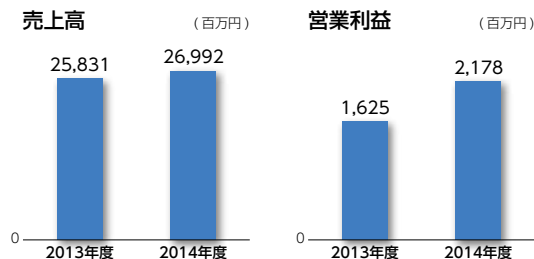
装置事業全体では、前期比で売上高は4.5%増加しました。営業利益は、売上構成の変化などにより前期比で34.0%増加しました。



恒温恒湿器
プラチナスJシリーズ



冷熱衝撃装置
TSAシリーズ



サービス事業

受託試験が好調に推移し増収となるも利益は減少

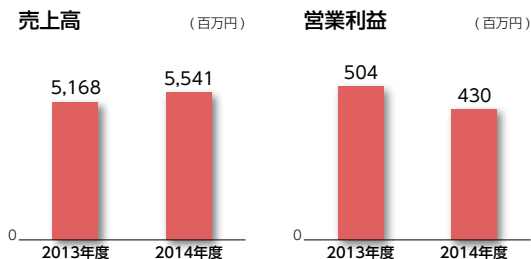
アフターサービス・エンジニアリングでは、受注高・売上高ともに前期並みとなりました。受託試験・レンタルでは、自動車市場において主力のテストコンサルティングが好調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加しました。サービス事業全体では、前期比で売上高は7.2%増加しましたが、営業利益は、原価率の悪化などにより14.6%減少しました。



受託試験の様子



豊田試験所(愛知県豊田市)



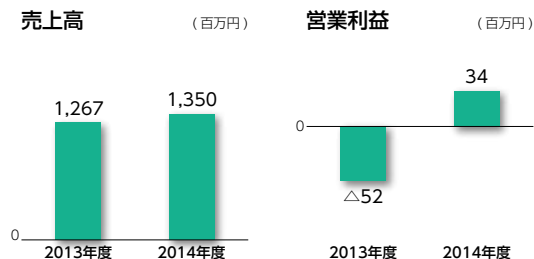
その他事業

売上高が増加、利益は前期から改善し営業黒字

環境エンジニアリングでは森づくりが好調に推移するとともに、植物工場事業の売上高が前期比で増加しました。その他事業全体では、前期比で売上高は6.5%増加しました。利益面につきましては、前期から改善し、営業黒字となりました。



ストロベリーファクトリー(福知山工場敷地内)
コンテナ式植物工場でいちご栽培の実証研究を行っています



要約財務諸表

連結貸借対照表

(百万円)

科目	当期末 2015年3月31日	前期末 2014年3月31日
資産の部		
流動資産	33,036	30,503
固定資産	13,755	12,527
有形固定資産	9,644	9,257
無形固定資産	364	246
投資その他の資産	3,746	3,022
① 資産合計	46,792	43,031
負債の部		
流動負債	9,336	8,497
固定負債	2,003	1,721
② 負債合計	11,340	10,219
純資産の部		
株主資本	34,072	32,546
資本金	6,895	6,895
資本剰余金	7,172	7,172
利益剰余金	20,554	18,838
自己株式	△550	△360
その他の包括利益累計額	1,085	5
少数株主持分	293	258
③ 純資産合計	35,451	32,811
負債純資産合計	46,792	43,031

① 総資産

前期末と比べ3,761百万円の増加となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金の増加876百万円、仕掛品等のたな卸資産の増加698百万円、固定資産の増加1,227百万円などによるものです。

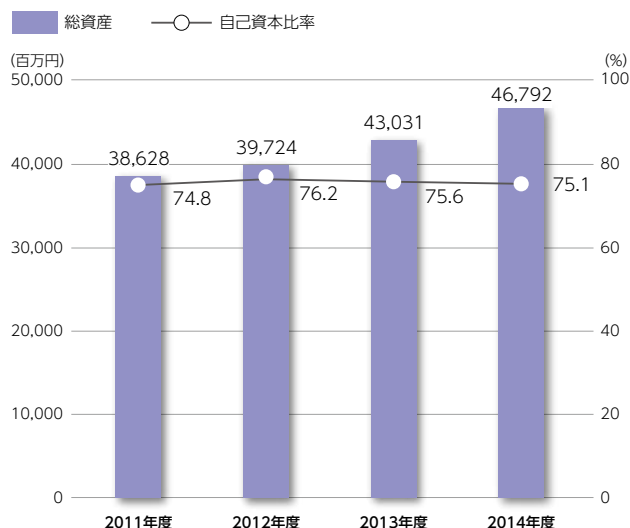
② 負債

前期末と比べ1,120百万円の増加となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金などの流動負債の増加838百万円、繰延税金負債などの固定負債の増加281百万円などによるものです。

③ 純資産

前期末と比べ2,640百万円の増加となり、その主な要因は利益剰余金の増加1,715百万円、為替換算調整勘定の増加544百万円などによるものです。

総資産／自己資本比率

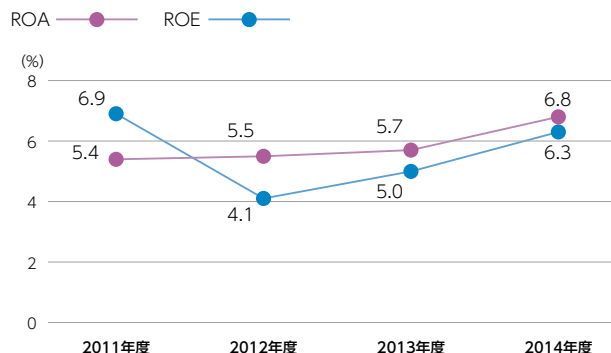


連結損益計算書

(百万円)

科目	当期 2014年4月1日から 2015年3月31日まで	前期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで
売上高	33,661	32,099
売上原価	21,567	21,367
売上総利益	12,094	10,731
販売費及び一般管理費	9,450	8,654
営業利益	2,643	2,077
営業外収益	422	312
営業外費用	21	19
経常利益	3,044	2,370
特別利益	272	2
特別損失	7	17
税金等調整前当期純利益	3,309	2,356
法人税等	1,142	731
少数株主利益	48	53
当期純利益	2,118	1,570

総資産経常利益率 (ROA) / 自己資本利益率 (ROE)



連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	当期 2014年4月1日から 2015年3月31日まで	前期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,818	838
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△293	△1,266
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△508	△452
現金及び現金同等物に係る換算差額	297	464
現金及び現金同等物の増減額	1,314	△415
現金及び現金同等物の期首残高	12,853	13,268
現金及び現金同等物の期末残高	14,167	12,853

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

1,818百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、税金等調整前当期純利益の計上3,309百万円、たな卸資産の増加784百万円、法人税等の支払額884百万円などによるものです。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

293百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出728百万円、定期預金の純減額496百万円などによるものです。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

508百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、配当金の支払額463百万円などによるものです。

会社概要・株式の状況・株主メモ

会社概要(2015年3月31日現在)

社名	エスペック株式会社
本社	〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
創業	昭和22年(1947年)7月25日
設立	昭和29年(1954年)1月13日
資本金	6,895百万円
従業員数	1,338名(連結) 815名(単体)

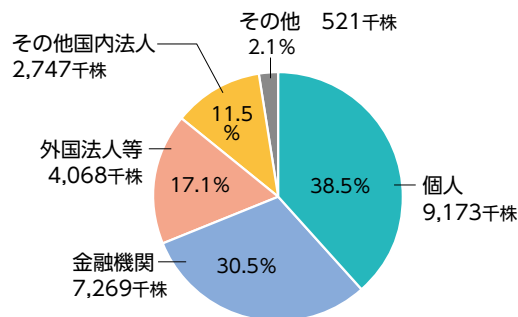
役員(2015年6月24日現在)

代表取締役社長	石田 雅 昭
常務取締役	島田 種 雄
常務取締役	石井 邦 和
取締役	桶谷 馨
取締役	村上 精 一
取締役	大島 敬 二
社外取締役	志関 誠 男
常勤監査役	村上 充
常勤監査役	小田 隆 昭
社外監査役	山本 哲 男
社外監査役	堤 昌 彦

株式の状況(2015年3月31日現在)

発行済株式総数	23,781,394株 (自己株式521,955株を含む)
株主数	5,943名

所有者別株式数分布状況



大株主

株主名	持株数 千株	持株比率 %
エスペック取引先持株会	1,972	8.29
日本ライフサービス信託銀行(信託口)	1,546	6.50
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	1,066	4.48
エスペック従業員持株会	834	3.51
日本生命保険相互会社	790	3.32
エスペック株式会社	521	2.19
株式会社みずほ銀行	513	2.15
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	497	2.08
株式会社立花エレテック	419	1.76
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	370	1.55

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基準日	3月31日および取締役会決議によって あらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0120-288-324(通話料無料)
お取扱店	みずほ証券株式会社 (本店および全国各支店、プラネットブース[株式会社みずほ銀行内の店舗]) みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店)
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店) (みずほ証券株式会社では取次のみとなります)
公告方法	電子公告 電子公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.espec.co.jp/ir/stock/notice.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載

お問合せ先

エスベック株式会社 コーポレートコミュニケーション部
Tel:06-6358-4744 e-mail:ir-div@espec.jp

ホームページのご案内

2015年4月、より見やすくわかりやすいホームページを目指してリニューアルを行いました。IRサイトにつきましても、当社の強みや成長戦略を紹介するコンテンツを追加するなど、内容の充実を図っています。その他、業績・財務データなどさまざまな情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。

<http://www.espec.co.jp>



株主アンケートのお願い

当社は、株主のみなさまからいただいたご意見を真摯に受け止め、経営に反映させていきたいと考えております。つきましては、別紙アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。
(締切：2015年7月25日当日消印有効)
アンケート結果につきましては、中間株主通信にて報告させていただきます。なお、アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で300名の方に1,000円分の図書カードを進呈いたします。
(当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます)

証券コード: 6859

エスペック株式会社

